**説教20221225ヨハネ1：1-18「言の内に命が」**

**今日クリスマスを迎えたこの時に、私達がこの教会に集められている、ということはとても幸せなことです。なぜなら、今、別府の街も、クリスマス・ファンタジアの最中ですが、まことのクリスマスは、今ここにこそあるからです。クリスマスと言うのは、イエスキリストが誕生して、この地上へと来て下さったことを記念して、お祝いするお祭りです。そして、イエス様はこの地上を歩んだのちに十字架に掛けられて、死んで葬られ、３日目に死人のうちよりよみがえり、今は天にいます父なる神の右に座っておられます。ですから、イエス様は、今は、私達からは見えないところに居られます。しかし、イエス様は、私達がどこにいて何をしているのかを逐一、天から見ておられます。クリスマスと言うのは、今は天に居られるそのイエス様が再び地上へと来られることを待ち望む時でもあります。**

**イエス様のことは、この聖書に全て記されています。イエス様が誕生して、地上を歩まれた生涯の最後に、十字架に掛けられて死んで葬られ、３日目によみがえり、今は天にいます父なる神の右に座っておられることを、先ほど申し上げましたが、その事実が複数の人たちによって証言されて、この聖書に記されたのでした。今日読まれた聖書では、14節の「は肉となって、わたしたちの間に宿られた。」というくだりが、イエス様の誕生を語っています。このと言うのは神様であるイエス様のことです。なぜ言葉が神様なのかと言いますと、神様イエス様は私たち人間に対して、良い言葉、励ましの言葉、安心させる言葉、癒し慰める言葉で答えて下さる方だからです。イエス様が何故、私たち人間と同じ肉となって、この地上に来て下さり、私達の間に宿られたかと言いますと、それはイエス様のほうから、私達一人ひとりと親しくなろうと思って、この地上へと来て下さったからです。私たちは、イエス様を信じて、彼と親しくなればなるほど、より多くの彼の言葉を聞くことが出来ます。イエス様の言葉を、聖書では御言葉という様に言っています。**

**イエス様は、約２０００年前に、この地上に誕生されて、肉となった、即ち、人間となられ、地上で親しくなった人々に御言葉を与えられました。神さまイエス様が人間と会話が出来る人間となられたのです。それは、私達一人一人が、イエス様のことを信じて、神の子となって、天にいます父なる神とつながって、まことの命、永遠に存続する復活の命を頂くためです。なぜ今ここにいる私たちにこそ本当の幸せ本当の喜びがあるのかと言いますと、それは、この世で恵まれる数々のプレゼントに、はるかに勝る、永遠の命というプレゼントに恵まれる機会が与えられているからです。私達一人一人に主イエス様は、永遠の命を恵まれようとされています。しかし、あなたが、もし、イエス様のことを信じないで、その御言葉を親しく聞こうとしないならば、あなたはそのプレゼントを受け取ることができないのです。逆に言えば、あなたが、子どもの様に、イエス様を信じて、その御言葉を受け入れるならば、あなたは永遠の命というプレゼントを受け取ることが出来るのです。**

**さて、イエス様は確かにおられます。しかし今は、私たち人間の目には届かないところに居られて、私達を見ておられるのですが、今日は、イエス様のお話を聞くのが初めての方も居られるかも知れませんので、目に見えるたとえを用いて、語って参りたいと思います。**

**別府クリスマス・ファンタジアのチラシをここに持ってきましたが、このお祭りも、このように色とりどりのたくさんの光に彩られています。皆さん、昨晩８時からの、打ち上げ花火をご覧になられましたか。昨晩は教会ではクリスマスイブ礼拝が行われ、その礼拝が終わったころに、ちょうど花火が打ち上げられましたので、礼拝後に花火へと向かわれた方も居られるかも知れませんね。**

**夜空一杯に広がる光の色彩、それは、満天を覆いつくし、消えてはまた光って、打ち上げの破裂音と共に、この地上にいる私たちの処にもやって来て、私達を包み、私達は、天と地と街並みと、そして人間とが一つとなる一体感をひと時、味わうことが出来るでしょう。そして、花火の打ち上げが終わると、夜空は静寂の闇に戻ります。私たちを包んでいた、花火の時間は終わりました。しかし、私達が、その花火を堪能して味わったという記憶は各自の心のうちに残ることでしょう。私たちは、昔見た、花火の場面を、それぞれ思い起こしながら、それぞれの記憶を呼び起こすことが出来るでしょう。**

**その花火の時間は、今晩もやってきます。今夜８時から花火は打ち上げられる予定になっています。言うまでもないことを敢えて申し上げますと、なぜ私たちは、やがてやってくる花火の時間を楽しみに待つことが出来るのでしょうか。それは、私達が、過去の花火の時間を記憶しているからでありましょう。あの時の花火はこんなだったけど、今度の花火は、どんなだろうなという期待が、それぞれの記憶から膨らんでくるのではないでしょうか。この昼間の空には花火は打ち上げられていませんので、決して今の私達は、花火を見ることは出来ません。しかし、私達は今は見えていない花火を、待ち望むことが出来るのです。**

**この花火を待ち望むということは、冒頭申し上げました、主イエス様を信じるクリスチャンたちが、イエス様が再び地上へと来られることを待ち望んでいることに似たところがあります。２０００年前にイエス様が人間としてこの地上に誕生して、人々と親しく交わられて、御言葉で会話をされて、遂には、十字架にかかって死なれました。けれども、3日後に永遠の命によみがえられたという奇跡が起こったことの記憶によって、クリスチャンはつなげられ、そうして、今、イエス様が再び来られ、私達に永遠の命をプレゼントする為に再び来られるという希望を信じて、待ち望むことが出来るようにされました。**

**クリスチャンが待ち望む、イエス様が再び来られる時は、何時になるのかは、誰にもわかりません。ただ主イエス様だけが御存じです。私たちは、いわば、2000年前に打ち上げられた花火の時間と、将来必ず再び打ち上げられる花火の時間との、間の時代に生きていると、たとえることが出来るでしょう。**

**イエス様は、申し上げましたようにでありますが、９節に書いてあるように、又まことの光でもあります。まことの光と言うのは、光を創ったお方と言う意味です。主イエス様は光ばかりでなく、全ての物事を創られた創造主であります。イエスキリストは、天も地も、人間も動物も、海も山も、そして時間をも造られたのです。３節に「万物は言によって成った」と書いてある通りです。まことの光であるイエス様は、たとえ姿を見せない間の時代にあっても、全ての人を照らしている誠の光です。**

**今の時代、社会に闇があり、人の心に闇がある、本当に光が見出せない時代であります。その闇の中で、道を見失って、希望を見失ってうずくまっている方がたくさんおられます。私たちはこの社会の闇、人の心の闇に何とか、光を当てて明るくして、再び明るさを取り戻そうとしていろいろと取り組んでいます。クリスマス・ファンタジアの企画で、連夜にわたって、花火が打ち上げられるということも、この花火の光によって、これから、来年ももずっとこの光を絶やさないでおこうという希望をつなげることでもあるでしょう。**

**16節　「わたしたちは皆、この方の満ちあふれる豊かさの中から、恵みの上に、更に恵みを受けた。」**

**イエス様は、私達に、恵みの上に、更に恵みをお与えになる方です。それは、最後に、私達に、永遠の命という最も大切で喜ばしいプレゼントを恵まれる為です。イエス様は、私達一人一人にとっての、ただ一人の救い主であります。人間は、いくら深く愛し合う二人であっても、相手に、永遠の命を恵むことは出来ません。又、我が子に期待して、その子が自分の命を受け継ぐことで自分の命が永遠になると考えることにも無理があります。この様な夫婦関係、親子関係が、苦しい依存の関係へと至ってしまうことは、今の世の中でよく起こってしまっていることであります。私たち人間は、ただイエスにだけ依存することで、救われます。そのようにイエス様が私達人間をお造りになったのです。私たちは先ず、イエス様に依存することから歩み出すと、その身に、恵みの上に恵みが与えられるようになります。**

**さて、花火の光も私たちに与えられる恵みの一つです。私たちは、この花火の一つひとつの光を恵みとして豊かに受けとって喜びを受け取っていきたいと思います。**

**この素晴らしい花火の打ち上げを企画した方は、どなたでしょうか。ここに、主催、冬の祭典実行委員会と書いてあります。この実行委員の方々が、花火の時間帯や種類やもろもろの企画演出を計画されておられるのでしょう。中には、その方々と親しくしておられる方も居られるかも知れませんが、又、私の様に、全く繋がりがなくて、疎い方も居られることでしょう。想像しますに、実行委員の方と親しくなれば、このクリスマス・ファンタジアのお祭りをよりよく楽しむことが出来るようになるのではないでしょうか。実行委員の方がどうやったら人を喜ばすことが出来るのか、知恵を絞って計画している姿に触れるのは、いわば喜びの根源に触れるような、この上ない喜びなのではないでしょうか。**

**花火を計画する人、と言うのは、或る意味、イエス様に似たところがあります。万物の造り主であるイエス様は、この世に光を配置し、暗闇を輝かせ、万物を明るく照らし出して、私達が本当の光の中で生きるように計画をされています。人間の人生の舞台は、全て、イエス様によって光が当てられるように、喜ばしく計画されているのです。**

**まことの光である、イエス様の光は、花火のように、消え去る光ではありません。イエス様の光は永遠に輝く光であり、その光を信じて、歩む者たちを、永遠の命へと導く計画を立てておられます。**

**どうか、私達が、光の源であり全てを企画計画しておられるイエスを信じて、その御言葉を親しく聞く者とされますよう、お祈りをしてまいりましょう。**

**お祈り致します。**

**天にいます、慈しみ深い父なる神様**

**父よ、今私たちは、この悩み多き時代にあって、もがき苦しんでいます。そんな中に、救い主イエスキリストをこの世に与えて下さった、あなたの計り知れない恵みに感謝いたします。今、多くの争いごとや、不和、不信、偽りの喜びに取り巻かれ、よりどころを見出せないでいる方々一人一人に、あなたが救いの手を差し伸べて下さい。姿は見えませんが、あなたの憐れみと慈しみに満ちた愛を、全ての人たちが受け取ることが出来るよう、御子イエスの御誕生を、高らかに告げ知らせてくださいますように。**

**あなたの愛の広さ、深さは、私達人間にははかり知ることができない程であり、それゆえあなたの愛に戸惑い、恐れをなしてしまう愚かな私たちを、ただ、あなたを信じる者として下さい。あなたの愛を受け入れ、恵みの上に恵みを頂く人生を送らせて下さい。**

**わたしたちが、この世にあって、喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きながら生活し、病の人に寄り添い、あなたの癒しと慰めをとりなして祈ることができるようにして下さい。まことの光に照らされている私たちが、絶えることがないあなたの愛に導かれて、絶えず愛の業に励み、遂には、永遠の祝福の場所へと入ることが出来ますよう、一人ひとりをあなたの子どもとして下さい。**

**父と聖霊**